

本校の研究

研究主題

基礎学力の定着と向上 ～小中連携を通しての家庭学習（自主学習）の定着～

1 研究の仮説

- ① 生徒の実態に応じて、学習指導を工夫し、個に応じたきめ細やかな指導を行えば、**生徒の基礎学力**は向上するであろう。
- ② 教師が全教科・全領域で**家庭学習（自主学習）**を意識した授業を実践すれば、生徒は基礎的な能力を身に付けることができるであろう。また、生徒は自らの夢や目標が明確になり、学習意欲が向上し、学力が向上するであろう。

2 研究の基本方針

- (1) 学習指導要領が求めている力へ発展できるような取組を展開していく。
- (2) 学校教育目標を達成するために、各部各係と連携協力した研究活動を行う。
- (3) 生徒の変容（成長・向上）を中心にすえた研究活動を行う。
- (4) 具体的な研究活動を通して、教師の資質や能力の向上を図る。
- (5) 学校、保護者、地域社会と連携を図りながら、研究活動を推進する。
- (6) 小中連携を図り、系統だった学力向上を目指す。**（小学校・学年×10分、中学校・学年+1時間の家庭学習）**

3 具体的な実践事項

- ① 生徒の資質・能力を育むための指導方法の工夫改善
- ② 道徳、特別活動、総合的な学習の時間で各教科等を繋ぎ、生徒の資質・能力を育成する
- ③ すべての教育活動の中での規律、規範意識の醸成
- ④ 研修内容の工夫と、教師の資質及び指導力の向上

具体的実践事項（案）

(1) 生徒の資質・能力を育むための指導方法の工夫改善（学力の充実と教師の授業力向上）

- ① 生徒の実態に応じた少人数指導の工夫
- ② 年間指導計画の見直し
教育活動（各教科の単元や学校行事、委員会活動、道徳や総合的な学習の時間の活動など）を「点」にたとえ、それらの「点」が結びつくことで「線」ができたり、「線」がより合わさることで「面」になったりというふうにはなっていないことが課題である。（活動の断片化）
- ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
 - ・ タブレット型端末を活用した授業開発及び実践
 - ★**めあて**（学習の見通し）、学習の**ふり返し**の工夫
 - ・ 自主的、自発的な学習が促されるような工夫
 - ・ 話し合いの進め方カードの活用（各教室にあります。必ず確認を）
- ④ 学習評価の充実
 - ・ 学習の過程の評価（形成的評価）、学習の成果の評価（総括的評価）を指導の改善に生かし、生徒の学習意欲の向上につなげ、生徒の資質・能力の育成に生かす。

⑤城山小学校、池上小学校、高橋小学校の3校との連携を図る

★基礎基本の定着のための家庭学習（自主学習）の徹底

- ・朝読書の時間の定着
- ・放課後の定期的な学習支援
- ・ドリルパークを活用した小テストの実施・年度初めの設定（情報担当）

〔2〕道徳、特別活動、総合的な学習の時間で各教科等を繋ぎ、生徒の資質能力を育成する

①道徳の時間の確実な実施

※「基礎的能力」の育成や、これらの能力育成を通じた勤労観・職業観などの価値観形成のためには、基盤となる自己の判断基準となる価値観形成が求められる。その価値観は、道徳を通して自覚させ、再構築される。（「中学校キャリア教育の手引き」文部科学省 より）

②特別活動を通して、各教科での取組を「つなぐ」（体験活動の充実）

③総合的な学習の時間の充実

※具体的方策：ナイストライ、集団宿泊訓練、職場調べ・高校調べ等において

- ・事前学習において職場体験のねらいを明確化する。（基礎的・汎用的能力からの視点）
- ・事後指導では生徒にとってお互いの体験が共有できるようにする、働くことの意義などを振りかえり、再考し明確化する
- ・発表とプレゼン力の強化・育成

〔3〕すべての教育活動の中での規律、規範意識の醸成

① 日常指導の確実な実践：凡事徹底

② あいさつ、掃除、遅刻ゼロ

③ 教育環境の充実：環境緑化の推進「花いっぱい学校」、整頓されたな室内と掲示活動の充実

〔4〕研修内容の工夫と、教師の資質及び指導力の向上

① タブレット型端末活用のための研修の充実

② 地区別人権教育研修会に向けた取組

★いろんな授業を参観できる雰囲気づくりを（難しいことに挑戦するのではなく）